

特集：安心・安全な社会に貢献する教育システム

看護の安全教育の学習支援システムと 授業プログラムの開発

立野 貴之*, 舘 秀典**, 風岡 たま代***

The Development of Learning Support System for Safety Education in Nursing Coursework

Takashi TACHINO*, Hidenori TACHI**, Tamayo KAZAOKA***

1. はじめに

看護教育では、知識だけでなく安全面への姿勢や意識の習得が重要になる。しかし、看護学生（以下、学生）がこういった姿勢や意識を身につけるには、特別な研修や経験を積む必要があり、知識習得の講義だけでは対応できない。実際の臨床と、講義や演習といった教育を結びつけるために、動画を利用したシミュレーション学習が注目され、看護教育の分野では評価も高い⁽¹⁾。

看護師は専門的な知識と技術、姿勢を持ち、臨床で活かせる実践力が求められている。そのため、動画視聴では安全看護の対応を振り返り、それを表現するスキルが養えるものであると考えられる。一方、国内でのシミュレーションによる教育や研究は、近年米国で行われているようなヒューマンエラーの分野での研究⁽²⁾はいまだ少ないのが現状である。そのなかで、Kazaokaらが報告した研究⁽³⁾などから、意識や対応の振り返りを目的とした看護教育の必要性があることは、明白である。

本稿では、看護教育の分野で行ったeラーニングの過去の知見から得た事例を検証した。そして、看護の安全教育の学習を支援するシステムと、システムに適合した授業プログラムを開発した。本システムを利用した授業では、さまざまな医療現場に潜むリスクを体験でき、学習意欲を喚起できると考えられる。

2. 研究の背景と目的

2.1 過去の知見

看護の臨床で起こるアクシデント（医療事故）やインシデント（重大な事故に至らなかった事象）⁽⁴⁾は、ミス（思い込みによる失敗）、スリップ（やり損ね）、ラプス（記憶忘れ）に分類され、要因はさまざまである。特に、ミスは知識や経験不足で生じることが多く、学生や新人看護師の実践力向上のために有効な学習方法が画策されている。先行研究では、シミュレーション教育⁽⁵⁾や学生同士のロールプレイ⁽⁶⁾、その効果の調査⁽⁷⁾、シナリオの妥当性の検討⁽⁸⁾がなされている。ICT利用の事例では、eラーニングや、携帯電話・スマートフォン（以下、ケータイ）によるモバイルラーニングの学習プログラムがある。また、eラーニングを利用した学習形態の一つとしてブレンディッドラーニングがある。ブレンディッドラーニングは、「対面授業とeラーニングを融合させた学習」と定義され、情報学の分野で実践と評価に関する報告がなされている。

看護教育の分野では、新人看護師や学生を対象としたWebベースでの研修・授業資料の配信の報告が散見される。例えば、動画教材の配信、オンラインテストの利用、講義と演習に予習・復習を活用して有効性

* 松蔭大学観光メディア文化学部 (Faculty of Tourism, Media and Cultural Studies, Shoin University)

** 東京福祉大学社会福祉学部 (Faculty of Social Welfare, Tokyo University of Social Welfare)

*** 松蔭大学看護学部 (Faculty of Nursing, Shoin University)

受付日：2017年6月17日；再受付日：2017年9月26日；採録日：2017年10月27日